



The Osaka University Dental Society

大阪大学歯学会  
The Osaka University Dental Society

# NEWS LETTER



October, 2010 | No.3

## 大阪大学大学院歯学研究科 オープンフォーラム開催によせて

大阪大学大学院歯学研究科長  
大阪大学歯学会 会長



米田 俊之

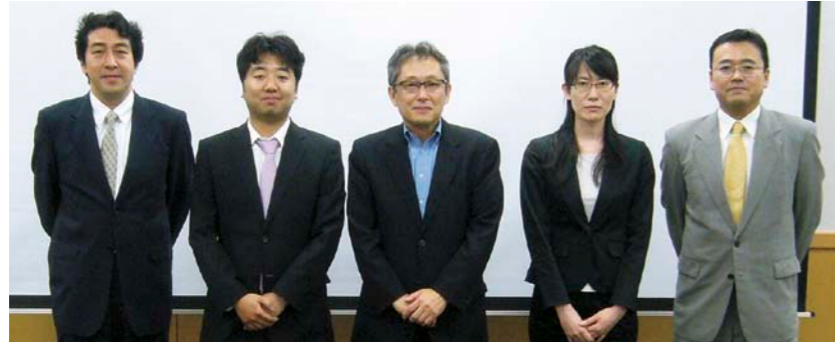
例年どおりに今年も大阪大学大学院歯学研究科オープンフォーラムを開催する運びとなりました。回を重ねるにつれてご参加下さる市民の皆様が増え、また毎年ご参加下さるリピーターの方もかなりの数がおられることから、このフォーラムも恒例化してきたのではと主催者一同大変喜んでおります。

今回のフォーラムのテーマは、最近何かと話題となっている歯科インプラントに関するもので、フォーラムのタイトルは「そろそろインプラント？」とし、インプラントをやってみようと思っておられる皆様にインプラントに関する正しい知識を得て頂こうと考えております。また大阪大学歯学部附属病院では本年4月より近未来歯科医療センターを開設し、インプラントを主体とする診療システムを開始致しましたので、その内容についてもご紹介したいと思っております。さらに、大阪大学歯学部附属病院には薬剤部が併設されていますが、歯科治療のためにどのようなお薬を扱っているかについてもご紹介させていただきます。こういった講演を通じて大阪大学歯学研究科および附属病院が、大阪市民の皆様方のくちの健康の維持、改善、向上のために重ねている努力や工夫を身近に感じ取って頂けると確信しております。今回のフォーラムに参加されることにより、歯科医学・医療の重要性を再認識して頂き、深いご理解と、温かいご支援を賜ることができれば、主催者としてこれに勝る喜びはございません。

### CONTENTS

市民フォーラム告知	1
大阪大学大学院歯学研究科長 米田 俊之	
平成21年度優秀研究奨励賞授賞式	2
大阪大学大学院歯学研究科 歯科補綴学第一教室 佐々木 淳一 大阪大学大学院歯学研究科 予防歯科学教室 岩崎 未央	
平成21年度優秀海外発表大学院生奨励賞授賞式	2
大阪大学大学院歯学研究科 口腔治療学教室 柏木 陽一郎 大阪大学大学院歯学研究科 歯科放射線学教室 Jira Chindasombatjaroen 大阪大学大学院歯学研究科 歯科保存学教室 松下 真美 大阪大学大学院歯学研究科 歯科補綴学第二教室 安藤 貴則	
大阪大学歯学会 第110回例会報告	4
大阪大学大学院歯学研究科 歯科補綴学第一教室 萱島 浩輝 大阪大学 歯学部四年次生 成清 綾	

## 平成21年度優秀研究奨励賞授賞式



平成22年7月8日 第110回歯学会例会において撮影

大阪大学大学院歯学研究科  
歯科補綴学第一教室



佐々木 淳一

この度、大学院研究で得られた成果に対し大阪大学歯学会から平成21年度の優秀研究奨励賞を頂きましたことを大変光栄に思います。

大学院研究では、*in vitro*での三次元組織構築を目的とした、細胞の三次元的配向、配置制御や細胞機能制御といった細胞操作についての研究を任せいただきました。生体高分子であるフィブリンを応用した組織工学研究領域での研究課題は、材料学的側面からのゲル物理的性質、細胞生物学的側面からの骨芽細胞機能変化、さらには、化学的側面からの有機/無機相互作用、無機結晶学的検討など多岐にわたる分野の理解が必要であり、研究開始当初にはゲル材料内で起こる現象の考察に困難を極めたことを懐かしく思い出します。今後も、このような

大阪大学大学院歯学研究科  
予防歯科学教室



岩崎 未央

この度、大学院での研究に対し平成22年度の歯学会優秀研究奨励賞を授与頂き、大変光栄に思っております。

本研究では、初期デンタルバイオフィルム形成菌の一つである *Streptococcus oralis* の菌体表層に関連する glycerinaldehyde-3-phosphate dehydrogenase の歯周病細菌 *Porphyromonas gingivalis* の線毛への結合部位を同定し、さらに、その結合部位のアミノ酸配列を基に作製した合成ペプチドを用いて種々の口腔レンサ球菌と異なる線毛型を有する *P. gingivalis* とのバイオフィルム形成に及ぼす影響を検討致しました。その結果、作製したペプチドは *P. gingivalis* のバイオフィルム形成に重要な役割を果たすことが示され、*P. gingivalis* の口腔内定着阻害剤として応用できる可能性が示唆されました。

本研究を通して様々なことを学び、また、研究の困難さや喜びも知ることができ大変有意義な大学院生活を送ることができ

素晴らしい賞を賜りましたことを励みとして、研究をさらに展開して進めていきたいと考えております。

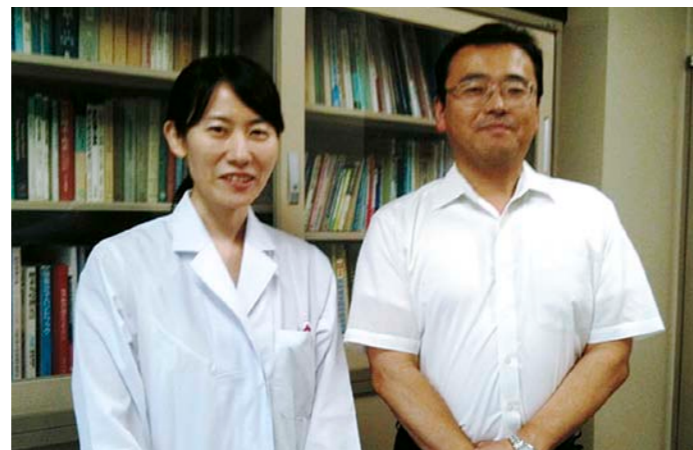
最後に、大学院時代の研究遂行に際して多大な協力を賜りました歯科理工学教室 松本講師、歯科補綴学第一教室 矢谷教授、江草助教に心から御礼申し上げます。



指導教官とSeoulの夜景を背に(左から筆者、松本先生)

ました。今後はこの経験を活かし社会に貢献できるよういっそう励みたいと考えております。

最後になりましたが、このような研究を行う機会を与えて頂き、御指導賜りました隼石名誉教授、永田准教授、並びに予防歯科学教室の先生方に心より御礼申し上げますとともに、このような栄誉ある賞を頂いた歯学会関係の皆様へ深く感謝申し上げます。



御指導頂きました永田准教授と

## 平成21年度優秀海外発表大学院生奨励賞受賞

大阪大学大学院歯学研究科 口腔治療学教室

柏木 陽一郎

私は海外での発表は初めての経験でした。敢えてチャレンジしたわけですが、発表の準備に際し、まず語学の壁がありました。抄録に始まり、ポスター作製、その後、AAPの審査員会よりポスターを使っての口頭発表も行う優秀発表賞選考に向けてのFinalistに選ばれ、その準備も必要になりました。日本語でもなかなか進まない作業、英語の単語や言い回しなど分からないことだらけでしたが、口腔治療科の柳田助教や村上教授に助けて頂き、何とか作り上げることができました。発表当日は、審査員が数人ずつ何組かに分けて各Finalistのポスターの前に回ってきてそれに対して討論するというものでした。事前に形式などは知らされていなかったので7・8分ほどの発表を準備していたのですが、そこまでゆっくり発表できる雰囲気では

はなかったので何とか要約して内容を伝えるのに苦労しました。終わって感想として、AAPでの受賞は逃したものの、英語で研究発表を行い、世界の研究者と意見を交換することができ、世界の研究者の中にいる自分という感覚を感じられたことが新鮮で大変貴重な経験でした。また、英語でとりあえず話すという度胸が少しついたかと思えるのが成果だったと思います。



発表ポスター前で

発表当日村上教授と共にポスターの前で

学会のパーティー会場にて日本からの参加者と共に

大阪大学大学院歯学研究科 歯科放射線学教室

Jira Chindasombatjaroen

This conference offered many opportunities to focus on various aspects of new imaging modalities in the field of dentomaxillofacial radiology. There were many well-known speakers, experts in general, dental, and maxillofacial radiology presented key-note lectures during the congress itself. Their lectures cover several important issues in dentomaxillofacial radiology, but also interesting topics in adjacent fields. It attracted a record number of abstracts which were a broad representation of the topics that are under investigation in dental and maxillofacial radiology. The results of these studies were presented during oral and poster presentations with ample of time for discussion.

Moreover, the technical exhibition features all prominent manufacturers of dental and radiological equipment and tools. It was an excellent opportunity to get the newest information about new equipment and

other developments directly from representatives of these companies.

There were some problems during preparation and participation in this meeting. Firstly, the preparation of the oral presentation in English which was not native language that also led to stress at the time of presentation in front of the Europeans. Another difficulty was hotel reservation and the transportation to the meeting place by reason of unfamiliarity with the environment in that country. However, all these problems have become good experiences not only for the knowledge from the conference itself but also the culture in the Netherlands.



The beautiful scenario in Amsterdam

At the time of presentation

Poster session and exhibition in the conference

大阪大学大学院歯学研究科 歯科保存学教室

松下 真美

2009年9月12日にミュンヘンで開催されたIADR-Continental European Division (CED) together with the Scandinavian Division and Israeli Divisionで発表した“Diagnostic Method of Root Fracture by Infrared Thermography”に対して大阪大学歯学会優秀海外発表大学院生奨励賞を頂くことができました。

私にとって初めての英語での口頭発表でした。口頭発表の準備段階では、簡潔に英語でスライドを作成することや口頭発表の原稿を作ることに、とても時間を費やしました。そして、本番では、まさにドキドキものの体験でしたが、予想以上に落ち着いて発表できました。心配していた質疑応答も、質問者の丁寧な表現にも助けられて質問が良く理解できたため、自分でも想像以上のディスカッションができた満足しております。ま

た、質問内容や座長の助言は今後の研究への示唆にあふれるものであり、私にとって、とても有意義な発表となりました。

最後になりましたが、このような機会をいただいた大阪大学歯学会の皆様、さらに本研究、発表においてご指導を頂きました恵比須教授、竹重教授、岩見助教並びに、共同研究者の皆様へ、この場をお借りし心より御礼申し上げます。



向こうのパソコンでパワーポイントが見れず、その際に助けくださったスタッフ

学会会場前

発表後に竹重教授と会場前で記念撮影

### 安藤 貴則

発表するにあたり、スライドの流れを幾度もチェックしてもらい、発音に関しても間違っている部分がないかどうかを大学院GP担当の英語の先生にご指導いただきました。また、自身の発表で一番伝えたいことが何なのか、それを明確に伝えるにはどうすべきかについての指導を受けました。15分の口頭発表でしたが、最終的には満足いく発表ができたと感じています。しかし、発表後の質問事項に関する部分では、英語で上手く自分の意見を伝えられるレベルに達していないことを改めて痛感させられました。そのため今後の更なる英語能力の向上が目標になりました。

大学院時代に海外の学会に参加したことは、また南アフリカ共和国という普段あまり馴染みのない国を訪れたということも含め、自分自身の経験値を上げることができ、今後の臨床や研究生生活に役立つと感じています。

最後になりましたが、今回このようなすばらしい機会を与えてくださった、前田教授をはじめ諸先生方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。



テーブルマウンテンからケープタウンの街を一望



発表中の様子

懇親会にて (筆者：1番右)

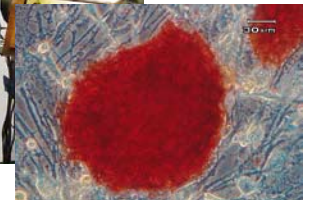
## 大阪大学歯学会 第110回例会報告

### 萱島 浩輝

我々は、iPS細胞源として患者の負担が小さく採取が容易な歯肉組織に着目した研究を進めています。これまでに、歯肉線維芽細胞は良好なリプログラミングを示し、癌遺伝子c-Mycを用いずに質の高いiPS細胞が樹立できることを明らかにしています (PLoS ONE: 掲載)。現在私は、学位研究課題としてこのiPS細胞の骨芽細胞誘導に取り組んでおり、この課題で国際歯科研究学会 (IADR) 補綴学研究グループの大学院生フェロシップに採択されています。今後も歯学会などの場を活用して、研究活動に精進したいと考えております。



今年7月IADR, Barcelonaにて当研究グループ3名の受賞式 (右から綿本、筆者、福安、江草)



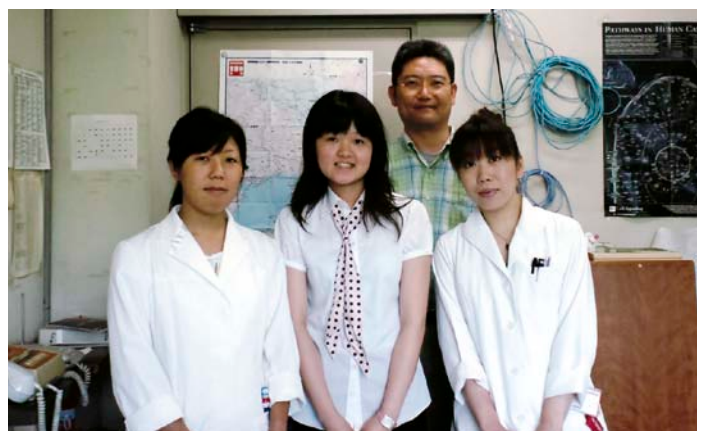
マウス歯肉線維芽細胞からc-Mycを用いず樹立したiPS細胞

### 成清 綾

Monadの働きを示す結果がなかなか出ずくじけそうになりましたが、MDA-MB-231細胞におけるMonadの浸潤能の差が明確に現れて、実験がうまく行った時はとても嬉しかったです。

しかし、学会での発表の経験のない私にとっては、スライド及び原稿作りと何もかも初めてのことばかりで、どうすればいいのか全く分かりませんでした。このような私に佐伯先生が休日を返上してまで教えて下さったおかげでなんとか発表することができました。発表前は非常に緊張しましたが、会場が暗かったので発表時は落ち着くことができました。

上崎先生はじめ薬理学教室の諸先生方ありがとうございました。



ご指導いただきました左から島田華奈先生(第2口腔外科)、筆者、佐伯万騎男先生、井上美香先生 (麻酔科)